

濃緑・高栄養価 PMMoV(P_{1.2})抵抗性

ピーマンさらら (L³)



公益財団法人 園芸植物育種研究所

〒270-2221 千葉県松戸市紙敷 2-5-1

Tel.047-387-3827 Fax.047-386-1455

さらら

品種特性

- 草勢はやや強く、節間はやや長めで、側枝の生育も良好です。
- 果実は着果率が高く、シワが少なく尻つまりの良いきれいな形です。
- 果色が濃緑で、一般的な緑の品種より、クロロフィル、アスコルビン酸(ビタミンC)の含有量が多い果実です。
- 着果性が非常に良く、初期から安定した収穫が可能です。
- ピーマンの青臭さが少なく、苦みも少ないので、サラダなどの生食にも向いています。
- PMMoV(P_{1.2})(トウガラシ微斑ウイルス)に抵抗性(L³)があります。
- 半促成栽培から夏秋栽培までの作型が、最も適しています。

栽培の要点

- 収量を上げるため、若苗定植や第2~3分枝までの摘蕾を行い、初期から草勢を確保することが大切です。
- 過度の着果負担により草勢が弱ると、とがり果や曲がり果等の変形果が増加し、主枝が芯止まりになるので、Mサイズ中心で取り遅れのないように、こまめに収穫してください。
- 夏秋栽培では果実肥大が特に早いため土壌水分不足になりやすく、尻腐れ果発生のリスクが高くなります。高温期には、1日あたりの灌水回数を増やしてください。
- 追肥は、収穫開始の時期から肥料切れにならないように、即効性の液肥等でこまめに複数回に分けて行うように心がけてください。
- 露地栽培でも果実は柔らかく良好な品質を保ちますが、多雨期には腐敗果が発生しやすいので雨よけ栽培をお勧めします。
- 過繁茂は果色を薄くするので、ふところ枝や徒長枝を早めに除去して株全体に光が当たるように管理してください。
- 青枯病に一定の抵抗性をもちますが、発病する圃場ではピーマン台木「台助」に接ぎ木して栽培することをお勧めします。

公益財団法人 園芸植物育種研究所

〒270-2221 千葉県松戸市紙敷 2-5-1

Tel. 047-387-3827 Fax. 047-386-1455